

100年目の挑戦

ぴっぷいちご

ぴっぷいちご
サイダー

名産「比布苺」のはじまり

いちご栽培は、大正10年（1921年）頃、太田山付近の農家が子どものおやつとして植えたことが始まりとされ、大正末期から昭和初期には、村内や旭川市などで小売り販売し、畑作農家の現金収入源となりました。昭和10年頃からは、旭川への市場出荷が始まり、生産者の組合組織（イチゴ生産組合）が発足され（戦後、比布イチゴ生産組合に改組）、銘柄「比布苺」として小売店や消費者から親しまれていました。

危機からの脱却

減少の危機を迎えていた昭和46年、名産「比布苺」を蘇らせようと、町内有志の働きかけにより、ハウス栽培の研究が始まりました。翌47年に、旭川の市場へ500パックが初出荷、

48年には、8戸の農家による共販体系の比布ハウス苺生産組合が設立。また、町では、良質ないちごの供給に向け、実取り苗の町営採苗圃（昭和62年度まで）を設置しました。

昭和57年には、比布町青果振興会が発足し、その専門部会として各生産組合がイチゴ部会とハウスイチゴ部会に改められました。なお、現在は合併し（平成元年より）、ぴっぷいちご部会となっています。

この頃は、周年栽培に向けた夏秋穫り苺研究会も発足、翌58年には株冷苺（6月定植・8月収穫）や短日苺（7月定植・10月及び翌年6月の2季どり収穫）が栽培され、多くの取り組みが実施されました。

いちご狩りの誕生

昭和57年から、旭川市の中心街買物公園でいちごの消費拡大に向けて、販売や試食会を実施する「ぴっぷいちごまつり」が行われました。

翌58年からは、露地栽培での観光いちご狩りが行われ、昭和61年には、各農園相互の連絡体制構築や、料金

設定・宣伝活動などの一元化を図るため、比布苺狩り連絡会が結成され、現在も活動が続いています。

最盛期からの道のり

いちご狩りは、平成5年に1ha超の「いちご狩り公園」が開園され（平成12年まで）、平成7年には入園数6,906人を記録するなど人気を博しました。一方、ハウス栽培は、平成4年からポイラーを活用した加温促成栽培を導入し、平成8年にはベチカ（夏秋どりいちご）の栽培を開始。平成10年には加温促成栽培での宝交早生（春どりいちご）と併せ、最高販売金額1億1,335万円を記録する最盛期を迎えました。

しかし、その後、灯油代の高騰により採算が合わず、件数・面積ともに減少に転じました。

また、いちご栽培は、水稲との複合経営が多く、春どり栽培では、水稲と繁忙期が重なり、近年の農家1戸あたりの経営面積拡大も相まって、いちご栽培が困難になるなど、今後の展開に大きな課題となりました。

再振興への挑戦

平成15年に夏秋どりの高設栽培を導入、平成20年にはJAぴっぷ町による実取り苗の採苗施設が設置されましたが、栽培環境要因に生産者の高齢化などが加わり、現在の作付は、年々減少の一途を辿っています。

しかし、平成30年に「ぴっぷいちごの再振興」を掲げ、生産者と関係機関（町・JA・上川農業改良普及センターなど）が一体となるプロジェクトチーム（以下「PT」）を結成。PTでは、いちご栽培の労働時間に着目し、農閑期を活用した新たな栽培体系「冬どり栽培」を提唱。そして令和元年、生産者を公募の上、「冬いちご実証栽培」として、ぴっぷいちごの再振興に向け、町を挙げた挑戦が始まりました。

誕生100周年を記念

これまでの歴史への共感と、ぴっぷいちごを愛する皆さんに感謝の気持ちを形にしようと、ぴっぷいちご誕生100周年記念事業実行委員会を設立しました。

【主な記念事業】

① **ぴっぷいちご紹介キャンペーン**
町内9店の飲食店で、赤い妖精（夏秋どりのいちご）を使い、特別メニューを販売。

② いちご栽培体験

町内の小中学生を対象にいちご（ゆきうら）の定植体験。今年の夏には、収穫体験も実施予定。

③ ぴっぷいちごサイダー

果汁15%のいちごサイダーを作るため、初のクラウドファンディングに挑戦。目標額を上回る168万6千円の支援をいただきました。

※いちごサイダーは令和4年3月下旬に完成予定。

④ ぴっぷいちごSNS#キャンペーン

SNSを活用して、ハッシュタグ「#ぴっぷいちご100周年」を入れた比布町といちごに関連した投稿を募集。投稿者に抽選で景品を贈呈。

ぴっぷいちごの未来

ぴっぷいちごが100年続いてきたことは、町の大切な財産です。米など主食となる作物を除けば、



ふるさと納税で比布町を応援してください



味わいは、やや辛口で、米の風味がしっかりと感じられるさわやかな仕上がりの地酒「必富」は、昨年6月から販売がスタート。地酒を飲んで「必ず富む」という願いも込められ名付けられました。

インターネットで検索

[比布町ホームページ](#)

返礼品は上記の他にも、比布産米、TKGセット、メロン「甘栗」、びっぷりんなど、約100品から選ぶことができます。

まちのできごと Town News

2021.3- 2022.2



3/12 北比布駅 お別れセレモニー

- 令和3年3月12日
JR南比布駅・北比布駅が廃止
- 3月26日
0円都市開発合同会社と空き家流動化に関する連携協定を締結
- 4月11日
運動と食による脳の活性化事業の一環として、運動教室を開講
- 5月17日
新型コロナウイルス個人別接種がびっぷクリニックでスタート
- 5月19日
第1回びっぷ町フォトコンテストを募集（締切令和4年1月31日まで）
- 6月1日
比布町産米の酒造好適米「彗星」を使用した地酒「必富」が誕生
- 7月11日
お笑いコンビEXERT「萎えぼよエリアぶちアゲ活性化ツアー」を開催
- 7月18日
バレーボール町技50周年記念事業開催
- 7月15日・26日・30日
びっぷ未来会議（3団体）を開催
- 7月29日
PIP相互応援大使活動2周年！磁石を使った実験教室を開催
- 8月17日
田中芽依さん（中3）と山田玲華さん（中2）が全国中学総合体育大会ソフトテニス（栃木県）に出場
- 8月21日
良佳村サマーアクティビティ体験会（バギー・気球・パラグライダー）
- 9月13日
JAぴっぷ町が学校給食に新米「ななつぼし」2トンを寄贈
- 11月3日
越智守さんが瑞宝双光章を受章
- 11月6日〜7日
平岡稜真選手が北海道秋季学生卓球選手権大会で三冠達成
- 12月4日
梅澤満喜さん（小4）が自民党総裁杯将棋大会で全道優勝
- 12月14日
村中一徳町長が無投票で再選
- 令和4年1月6日
比布町議会議長中本諭氏がご逝去
- 1月14日
議会臨時会で、佐藤康則氏が議長に、今井明信氏が副議長に就任

ふるさと会から

3つのふるさと会ともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら2021年も総会が中止となりました。今後の開催時期についても、状況をみながら検討してまいります。

詳しくは、各連絡先または比布町役場総務企画課まちづくり推進室広報係へお気軽にご連絡ください。

一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、再びふるさと会の交流が再開できますことを願っています。

旭川比布同郷会

- 会長 合田 春夫さん
- 会員 約350人
- 総会 毎年3月中旬ごろ
- 会費 5,000円程度
- 連絡先 今野浩安さん ☎0166-61-4492

札幌比布会

- 会長 大谷 知彰さん
- 会員 約250人
- 総会 毎年7月上旬ごろ
- 会費 5,000円程度
- 連絡先 高橋美伸さん ☎090-1640-3453

東京比布会

- 会長 牧野 正さん
- 会員 約300人
- 総会 毎年6月下旬ごろ
- 会費 8,000円程度
- 連絡先 深瀬和昭さん ☎048-554-6765

ありがとうございます

札幌比布会役員の飛弾野敏子さんから小中学校の新1年生に向けて、桜の形をした手作りのアクリルコースターやランドセルのマスコットなどが贈られました。

心温まる記念の品をお寄せいただき、ありがとうございました。

